

お互いに備えよう

マンション内での助け合い

つながって、防災力の向上を（共助の備え）

遠くの親類より近くの知り合い

マンションでのつながりづくりに関して「居住者の協力を得るのが難しい」と言われます。ですが、いざという時にはご近所に知り合いがいることで、安否確認や救助活動がスムーズに行えるなど、自分の身を助ける結果につながります。

大きな規模の災害が発生すると、警察や消防、行政などの公的機関は十分に対応することができません。そのような時に力を発揮するのはマンション内での助け合い「共助」です。



災害直後の孤立を防ぐ

大けがをしたり、玄関ドアの変形など、自力で避難できず取り残される人が発生しないように、お互い注意しあいましょう。

マンション全体の安全を守る

一戸でも火災やガス漏れが発生すると、マンション全体で住めなくなる可能性があります。火災を防止するために協力しましょう。

避難生活の質を確保する

知らない人と共同生活をする避難所よりも、マンションにとどまって助け合う方が身体的にも精神的にも負担が少なく避難生活を継続できます。

支援物資の配布なども、個人で避難所へ取りに行くのではなく、マンション単位で行く方がスムーズな対応が可能です。

(1) 居住者の把握と災害時居住者名簿の作成

災害時に速やかにマンション内での安否確認、在宅避難者数を把握するために、平常時にあらかじめ「災害時居住者名簿」を作成しておきましょう。

名簿の作成にあたっては、居住者それぞれのプライバシーを確保し、収集する情報はその部屋の代表者（世帯主など）の名前、居住者の人数といった最小限のものにします。

なお、居住者本人の同意が得られるようであれば、「避難行動要支援者^{※11}」の人数や支援が必要な内容、また、災害時に役立つ技能や資格を持つ人の情報があればそのような情報も収集できるとマンション単位での災害対応がスムーズに進められます。



あらかじめ収集しておくと有用な情報

医療、看護、介護、建設、
設備関係などの仕事についている人や、
語学（外国語）、手話通訳などの技能を持つ人

※11 災害時に自力での避難が難しく、手助けが必要な高齢者、乳幼児、障害者などの災害弱者

(2) 災害時のルールを決めて共有しておく

災害時の二次被害を防ぐため、居住者が守っておいて欲しいことを決め、回覧や掲示で共有しておきましょう。そして、災害時の行動を居住者で共有するために防災訓練を行いましょう。

【災害時のルールの例】

- 水、食料、トイレなどの生活物資は、各家庭で備蓄する。
- 電気が復旧した際の漏電火災を防ぐためにブレーカーを落とす。
- 確認が完了するまでは、トイレやお風呂の水を流さない。
- ごみは収集の見通しが立つまで各家庭で保管する。

白いタオルを使った安否確認の方法

災害時は、居住者の安否確認をとる必要がありますが、集会室などにそれぞれ報告してもらったり、一軒一軒訪ねて回るのは時間がかかります。迅速に安否確認を行う方法として、どこの家にでもある白いタオルを使った方法をご紹介します。

- ① 家族の安全が確認できれば、白いタオルを決められた場所（玄関先の新聞受けなど）に結ぶ。
- ② 各階の担当者（管理組合の理事など）は、タオルを巻いている部屋を確認する。
- ③ タオルが巻かれていない部屋は、救助の必要がある可能性があるため協力して確認する。
- ④ 集会室などに設置した災害対策本部で、災害時居住者名簿に書かれた居住者数でタオルがまかれた部屋の在宅避難者を集計する。

